

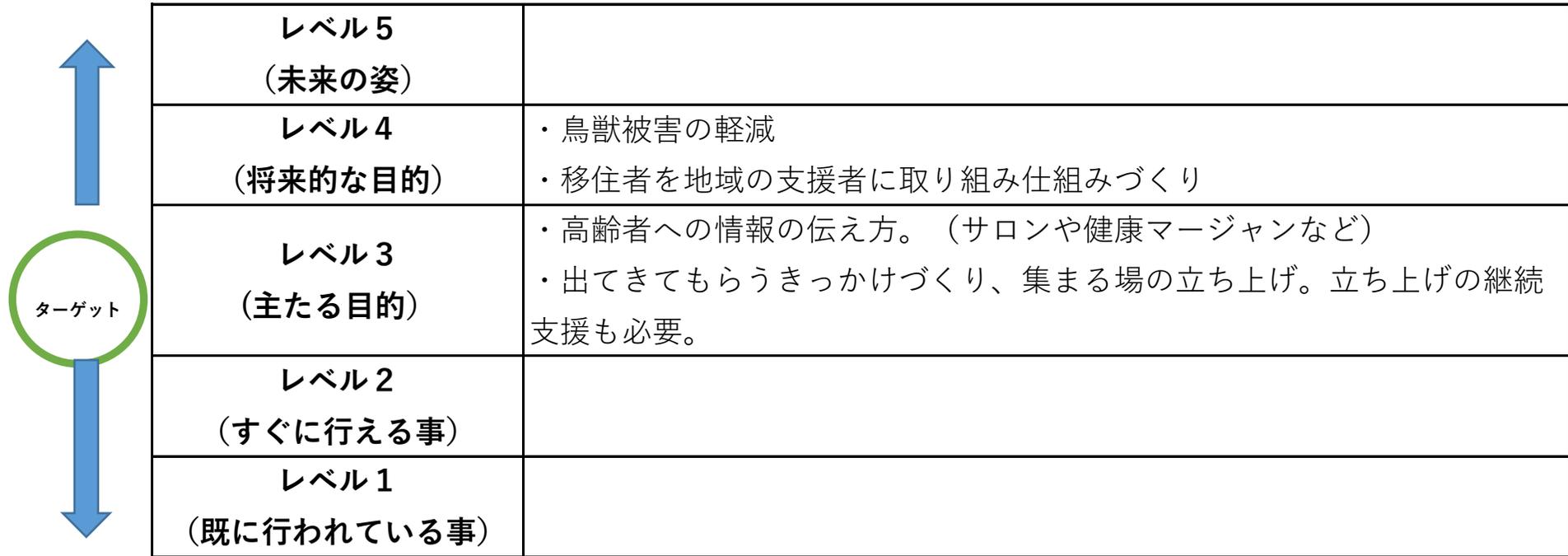
1グループ（市街地） 地域アセスメント

データ		アセスメント			解決すべき課題
客観的データ	主観的印象	強み (活用/強化ポイント)	弱み (=問題)	補足 (強み/弱みの根拠)	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率 40% ・国道沿いにバス停あり郡部からの移動もできている。 ・タクシー、福祉有償運送もある ・大型スーパーあり配達等もある。 ・認知症カフェやグループ活動で集まれるような通いの場が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて商店に通える。 ・移動販売の時間が合わないこともあり買い物ができない時もある ・平地と山間の差が激しい ・意外とイズミのシャトルバスを活用している人多い ・坂道が多い地域は移動が難しい ・空き家が増えており着実に人が減っている ・奥万田地域の移送サービス登録者が少なく利用自体も少ない ・個配が充実している ・個配を頼んだり出たついでに買い物している人が多い、併用しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人商店でボランティアで配達してくれるケースがある ・高梁社協へマルナカの移動販売車が来る ・生協の個配が充実している、希望があれば対応できている ・移動手段はタクシー等含めて多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人商店は採算とることが難しいのでいつまで続けられるか分からない、店主の高齢化 ・吉備国に販売が来ていたが子どもの減少により無くなった ・生協のドライバー不足がこれから深刻化するかも ・バス路線はあるが乗降ステップがよくないバスも多いので乗り降りが大変 ・手段は多いが体力低下により移動すること自体が難しくなっている ・坂がきついで移動が難しい ・免許返納後の生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・生協で頼んだものを忘れていたり、頼みすぎなど増えている、たまにトラブル起きる ・生協が配達する中で何かおかしいと思ったら地域包括につなげるようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいき生活サポーターで個配を手伝ったり、注文を手伝ったりする方法が取れないか ・バスに乗りやすくなる電動ステップ等の開発を要請 ・移動に特化したセニアカーの開発 ・中山間地域のセニアカー貸与は条件が緩和されているためケアマネジャーの知識向上が必要 ・免許返納前にセニアカーなどの代替手段があることを周知したり体験してもらうことで抵抗なくサービスにつなげる ・皆で集まった場所に配達が来るような仕組みがあれば閉じこもり防止にもなるし、楽しみが増える ・イベントや何かしらの集まりのついでで買い物ができるような仕組みづくり

2 グループ（山間部） 地域アセスメント

データ		アセスメント			解決すべき課題
客観的データ	主観的印象	強み (活用/強化ポイント)	弱み (=問題)	補足 (強み/弱みの根拠)	
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉バス 長地、中野1/W ・ふれあいタクシー 予約制 ・一般タクシー 移送サービス 予約困難 ・買物支援 JAが成羽地域に来ている？→無くなった ・生協個配 ・ボランティア ・福祉サービス助成制度あり ・中山間地域 高齢化率高い ・成羽山間部 高齢化率65%→70%超える ・小泉、中野 バス路線。人が集まりやすい。 ・羽山、相坂は人の動きが少ない。 ・空き家の活用 小泉・中野は移住支援をしている。 ・移送サービス 成羽で65名登録で割合高い（高梁市内で398名） ・高齢化による支援者不足 ・生活福祉バス 本数限られている ・移動販売 何件か集まっているところには来ている。 ・生協の個配あり。 ・買物のため、高齢でも免許は更新している。 ・遠方に住む子供たちが、週に1回は帰ってきている。受診も付き添ってくれる。 ・配食 3/W だるまやが作って、配送まで。西布寄～羽根 ・だるまや 個配も行っている。→中野はお断りも。 ・小泉 町内会活動活発。 ・サロンはコミュニティ内で活発にある。 ・ほかの集まりは、成羽の街中までいく。 <p>新見市（大佐地区）のアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約27,000人 高齢化43% 一人暮らし1828人 ・新見市内の循環バス エリア広域 ・担い手不足 ・買物不便 ・主要な道路であれば、公共交通機関あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制度はあるが知られていない。 ・地域行事の担い手が減少。地域行事の消滅 ・車がないと生活できない ・徒歩移動は困難 ・人がまばらに住んでいるので、移動販売の拠点ができない。 ・地域行事が減っている。 ・買物の選択肢が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数の移動手段はあるのはある。お金等気にしなければ。 ・一部買物支援の機能はある。 ・ヘルパーとデイについては充実している。 ・生活意欲は保たれている。 ・地域資源や観光資源あり。景観をいかしたまちづくりができれば。 ・空き家への移住を進めていけば。 ・配食や移送サービスは強み。 ・子供たちの支援あり。 ・子供達もだんだんと、畑作支援ができなくなっている。鳥獣被害が激しい。 ・地域とのつながりがあり、周囲が気を使ってくれる。（目が届く範囲で、夜は難しい。） <p>新見市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学を活かしたまちづくり ・学識軽経験者のサポート ・新たな社会資源の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援制度の周知不足。 ・ボランティア高齢化 ・利用の心理的ハードルが高い ・近所の距離が近すぎて、物事を頼みづらい ・支援の手が不足している。 ・山坂が多いので、膝や腰に負担がかかる。 ・日中に若い人がいない。見守りの不足。 ・空き家増加により、近所が遠い。 ・移動販売は儲けが出ないので、やってこない。 ・担い手不足 <p>新見市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR存続危機 ・高齢者が利用しやすい、支援方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・閉鎖的な地域があり、外からの支援が入りにくい。 ・新見市 学校と連携し交通支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアまではいかない、ゆるい支援作り ・住民の敷居を下げる仕組みがあれば。 ・ボランティア、買物支援の確保。 ・情報の届きにくさの支援を。 ・口コミによる支援体制の構築。 ・地域のコミュニティを再構築する集まりの場を作る。 ・地域資源の維持と活用→移住者を取り込む支援を。（移住者の支援について周知） ・情報をどのように、高齢者へ届けるか。常会も無くなってきている。 ・サロンはあるが、行くことができない人をどのように情報を届けるか。 ・エリアの広いカフェは、乗り合わせで参加者を募っている。 ・情報が分かっている、それに動く高齢者がいない ・高齢者を引っ張り出す支援が必要。 ・通所付き添い講習、年間で開催が限られていて、養成までに時間がかかる。 <p>新見市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買物支援のため、主要道路までの支援をどうするか。 ・移動販売もしくはドアツードアの買物ツアーの実施。どちらがよいか。

2グループ（山間部） 目的の階層化



レベル5 (未来の姿)	
レベル4 (将来的な目的)	<ul style="list-style-type: none">・ 鳥獣被害の軽減・ 移住者を地域の支援者に取り組み仕組みづくり
レベル3 (主たる目的)	<ul style="list-style-type: none">・ 高齢者への情報の伝え方。（サロンや健康マージャンなど）・ 出てきてもらうきっかけづくり、集まる場の立ち上げ。立ち上げの継続支援も必要。
レベル2 (すぐに行える事)	
レベル1 (既に行われている事)	